

## 第2回京丹波町総合計画審議会 議事録要旨

令和6年10月30日（水） 午後1時30分～3時30分

開催場所：京丹波町役場 大会議室

### 1. 開会

（欠席者：津田委員、山田委員、嵐委員、杉浦委員）

### 2. あいさつ

<会長>

日頃より京丹波町総合計画審議会の運営にご協力いただき、また、本日はお忙しい中、ご参加いただき、感謝する。今年の夏は大変暑く、つい前日まで夏日が続いたが、ようやく秋らしい天気になってきた。私も体調を崩したが、皆様もお体には十分お気をつけください。

来年、京丹波町は合併して20周年を迎える。この20年間の人口減少を鑑みて、各分野のスペシャリストの皆様には率直なご意見などいただけると幸いである。ご協議のほど、よろしく願います。

<町長>

大変お忙しい中、ご出席いただき、御礼申し上げます。この京丹波町の街づくりに関して、この総合計画を参考に、社会経済状況の変化への適応を行いながら、町民の皆様方の豊かな暮らしの実現や街の活性化に向けて取り組んでいる。本町は来年で合併20周年を迎える。これを契機とし、いつまでも活気のある京丹波町を実現するための考え方をまとめ、ご提案していきたいと考えている。そのため、第3期総合戦略の内容は大変重要となってくる。今回は、人口の現状分析やアンケート調査結果などをご報告させていただくので、様々な視点でご意見をいただきたいと思います。

京丹波町は過疎化が進んでいるといわれるが、潜在的な可能性やポテンシャルの高い町だと考えており、魅力は多いと思っている。人口で見ると、転出者は多いですが、転入者も少し増加しているように思う。カフェが出来たり、起業される方が増えたり、といったことも最近耳にすることが増えた。京都府での観光入込客数も、京都市・宇治市に次いで3番目となっている。「食の街」というイメージも定着している。また、最近、子ども園を訪れることがあるのですが、多子出産家庭が少し増えていることなど前向きな話を聞くことができた。こうした町の魅力を行政施策に落とし込んで進めていきたいと考えている。

委員の皆様方のご意見を率直に出していただき、活発な議論になれば有意義な話し合いにできるのではないかと考えているので、お力添えのほど、よろしく願い申し

上げる。

### 3. 協議事項

①人口の現状分析と総合戦略の総合的評価について

(事務局より説明)

②住民アンケート結果について

(事務局より説明)

#### 【質疑応答】

<委員>アンケートの回収率が悪いのではないかと。設問が多すぎるのではないかと。

<事務局>様々な場所でアンケートを取っているが、回収率は3割いくと割と回収できているのではないかと考える。統計上の話であれば400弱ほどサンプルがあればプラスマイナス5%くらいの誤差になるかと思っている。しかし、できるだけ多くの意見が集まる方が良いとは考えている。

<委員>今のアンケートでは、若者の仕事をする場に関する回答が若者の意見か親世代の意見か分かりづらいですし、森林環境の問題で自然を感じる人が少ないというのも少し疑問が残る。自分の町に関するアンケートだから、もう少し前向きに意見を出してほしいと思う。少ない設問で多く回答してもらうのもひとつの手ではないかと思う。

<事務局>ご意見参考にさせていただく。行政が一方的に送るだけでなく、皆さんのご意見を求めたいと直接訴えるような機会を作れると良いと思う。設問を絞るなど考えていきたい。

<委員>移住促進を考える際、若い世代に来てほしいというのは分かるが、定年退職されたようなご年齢の方が来た際、街としては歓迎するか？

<事務局>移住促進に関しては空き家バンクの取り組みを中心に行っているが、傾向を見ると、50代や60代の方が多くご関心を持っている。もちろん喜ばしいことではあるが、持続的な町づくりを考えるとファミリー世帯にも来ていただかないとならないという面もある。

<事務局>集落によって年齢層が異なり、50代でも若手に入るような集落もある。施策としては子育て世代に優しい取り組みを行っているが、一方で空き家の対策として、空き家にただ住まわせるというわけではなく、そこに住まわれた方が、いかに地域に溶け込んで、地域で活躍されるかが肝になると思う。いろいろな方が街へ来て活躍する機会を一緒に考えていければと思う。

<委員>京丹波町に2011年に引っ越してきてからずっと思っているが、ゴミ袋に名

前を書くというのは必要なことなのか。移住してきた方から見ると、最初に驚くことだと思う。皆様どう思われているのか。

<事務局>ルールをしっかりと守っていただくことに重きを置いているということだと思う。それがなくなるとどうなるか想像した際に、ルールが崩れるのではないかと思う、プライバシーのことを考えると、一長一短と思う。

<委員>回収されないゴミがあった際に、別の方が処理しなければならなくなるため、記名していただいた方が良いと思う。

### ③次期戦略の方向性（骨子）について （事務局より説明）

#### 【質疑応答】

<委員>1が出来たら2~4は付いてくるのではないかと思う。1つ1つ考えていたら上手くいかないと思う。一番重要なのは1番ではないか。子どもたちが遊ぶところの整備も必要だと思う。地域ぐるみで見守っていくようにしないといけないかなと思う。遊ぶところがないという声も聞くので、そういったことも考えてほしいと思う。

<事務局>一人当たりの出生率が多い方だと思う。私自身も3人いるが、子育て環境には良い場所だと思っている。子どもがのびのびと自由に遊べる場所は少ないと思う。公園があっても、ゲートボール場が併設されていてポールが立ち、自由に鬼ごっこなどはできない。何も無いグラウンドや整備された遊具のある場所があると良いなと感じている。また、高校に進学するにあたって、町外へと目が向き、働く場所も少ないため、親だけ残って子どもは外へ出ていってしまうのではないかと思う。

<事務局>子どもの遊び場については様々な意見が出ている。雨が降っても遊べる屋内の場所なども必要ではないかと考えている。京丹波町で結婚・出産し、子育てできるような環境を作っていきたいと思う。

<委員>普段は絵本の販売や貸出、あそびの広場を行っているが、多くのお客様がいらっしゃる。小さなお子様をお持ちの方が知ってくださり、京丹波町に興味を持ってくださる方もいらっしゃる。京丹波町に里帰り出産で戻ってきている方が、この町に住んでいるお友達から「戻ってくればいいのに」というようなお話をしているのも耳にした。やはり、室内型の遊び場所がありがたいとおっしゃっている。小さなお子様をお持ちの方がより快適に暮らしていけるような施設が増えると良いなと思う。また、京丹波町で生まれ育った方が

いったん外に出て戻ってこられた方が、移住してくる方には補助があったりするけど自分たちにはないというような話も耳にした。移住者に対して行っていることを、戻ってこられた方にもしてあげたら良いのにと思いました。  
＜事務局＞移住促進事業は京都府が財源を持っていて、補助が出るが、京丹波町では住宅の改修補助金などは、移住促進地域であれば使える。

＜委員＞自然環境に関してですが、アンケートに回答された方の「自然」という定義が「手入れされたもの」であるかもしれない。また、定年退職して60～65歳くらいで移住してきた場合、農業だったら働き盛り。もしかしたら晴耕雨読な生活は、都市部の定年を迎える方から見たら理想的な老後かもしれない。生産年齢人口を64歳で切るのではなく、もう少し引上げて良いのではないのか。そういう人たちが楽しめる街であるということも示していけたら良いと思う。

＜事務局＞様々な世代の方に、様々な分野で街を支えてもらうことは大切だと思う。多様な方に住んでいただけるような仕組みを検討したいと考えている。

＜委員＞子どもたちに地域環境教育を実施していただけており、自然に関してしっかり学ぶことができていると思う。京丹波町と森林組合の取り組みを、年に一度発表する場があが、そこで京丹波町の地域環境教育のことを発表した。その後のアンケートでは「子供を連れて勉強しに行きたい」「定住したい」という意見が見られた。さらなる取り組みを計画していただければ幸い。

＜事務局＞環境教育・環境学習を進めており、町内の魅力を感じてもらえるよう取り組んでいる。引き続き計画に落とし込んで継続して進めていけるよう考えている。

＜委員＞アンケートを見ると、自然に関しては、写真に撮ったら綺麗なSNS映えするような景観がほしいのかなと思う。また、SNSがらみですが、国のデジタル構想は良いが、京丹波町でもいたるところで電波の届かない場所や弱い場所があるので、ネット環境の整備をお願いしたい。また、デジタルに関しては高齢者は置いてきぼりになりがちなので、バックアップ体制に関しても考慮していただきたい。

＜事務局＞積極的に働きかけを行っていききたい。高齢者を取り残さないよう、デジタル推進課とも調整・連携していききたいと考えている。

<委員>外から来ていただくことも必要だが、町内にいる方が自分の住んでいる町を好きになってもらう必要があると思う。それが人口増加につながるのではないかと考える。

<事務局>たしかに外から多くの人が来ているのに、町民の評価が低いと思う。町民に上手く街の良さをプロモーションできていない、まだ足りていないのだと思う。そうした内向けのプロモーションも、重要性も含めて検討していきたいと考えている。

<委員>京丹波町のキーワードとして「京都の真ん中にある」「日本の真ん中にある」というものがあると思うが、「日本のへそ」「日本のおなか」など、もう少し強調しても良いのではないかと思う。

<事務局>そういった分かりやすい表現は必要だと感じる。プロモーションなどで使っていけるよう検討する。

<委員>商工会の代表としてお話をさせていただきたいが、京丹波ブランドのような統一した何かを作ってほしいと思っている。来年合併20周年なので、それに向けて何か付加価値を付けられると、商品としての値も上げられる、張合いも出るのではないかと思う。

<事務局>商工会の方と意見交換しながら作っていけたら面白いのではないかと感じる。

<委員>来年20周年と、万博ということで思いついたが、万博とタイアップして、万博に来た方が京丹波町にも来てもらえるようなプランを作るのはどうか。

<事務局>万博関係はいま調整中でして、何か持ち込めないか、そしてこちらにも何か訴求するような取り組みができないか検討している。

#### ④その他

<事務局>前回の会議で一部質問に関するご回答できていなかったものがあつたので、ここで回答をさせていただく。

- 1、有償でふるさと産品として出品できないか  
→前向きに検討していきたい

2、第三子無償化事業は令和7年度に終了するが有償になるのか

→継続する

3、子育て支援センターは出産のため里帰りしている方も利用できるのか

→実際に里帰りの方にもご利用いただいている。

#### 4. 次回の審議会について

日時：令和7年1月28日（火） 13時30分～

場所：京丹波町役場 大会議室

#### 5. 閉会あいさつ

<副会長>

本日は、皆様のお立場から、日頃感じておられるご意見を聞くことができたと思う。いろいろな可能性を探り、町民ひとりひとりが危機感を持って、魅力的な生活を発信していければ、多くの人の流れを定着させていくことができるのではないかと考えている。これからも皆様の前向きなご意見をお聞かせ願えれば幸い。本日はお忙しい中、ご出席くださり、御礼申し上げます。